

草の根技術協力（草の根パートナー型）案件概要表

I. 事業の概要	
1. 対象国名	ボリビア国
2. 案件名	バジェグランデ市におけるごみリサイクル推進のための住民エンパワーメントプロジェクト
3. 事業の背景と必要性	ボリビアのサンタクルス県バジェグランデ市では市のごみ処理について投棄場周辺の環境汚染、市民の保健・衛生面での環境改善が課題となっている。この要因として市民の環境への意識が低いことから市内、河川へのごみのポイ捨てが見られ、分別してごみを処理して捨てるという行動につながっていない。2013年から行った先行事業では、新しいごみリサイクルシステムにより約1000家族の分別及び生ごみ堆肥化を市に導入したが、行政の制度としての長期的な廃棄物管理計画がまだ確立しておらず持続性に課題が残った。また市と住民が信頼関係を持ち、一体となって廃棄物処理に取り組んでいくためには、官民がバジェグランデ市の環境に配慮したごみ処理について話し合うことのできる場を構築し、同市で適応可能な環境教育・普及啓発のアイデアを創出する必要がある。
4. プロジェクト目標	バジェグランデ市のごみ処理による環境への配慮を官民が一体となって主体的に取り組めるようになる
5. 対象地域	サンタクルス県バジェ地域（バジェグランデ市を含む）
6. 受益者層（ターゲットグループ）	直接受益者：市役所職員清掃・廃棄物課約12名（清掃・回収作業員含む）、各団体（パン屋協会・交通機関協会等）、アースキーパーズプログラムファシリテーター養成研修受講者約10人、バジェ地域他市、バジェグランデ市の幼稚園、小学校、中高等学校の全校、小学校の教員20名、バジェグランデ市民1200世帯
7. 生み出すべきアウトプット及び活動	<p><アウトプット></p> <ol style="list-style-type: none"> バジェグランデ市が自発的に中、長期的な廃棄物処理計画を策定できる 学校教育の場で環境教育が持続的に組み込まれる バジェグランデ市民がゴミに対する意識を向上させ、バジェグランデ市役所の関与や支援も通じ、ゴミ分別が持続的に実施できる バジェグランデ市と住民による環境改善の実践が他の自治体に共有される <p><活動></p> <ol style="list-style-type: none"> 廃棄物担当者の人材育成と長期的な廃棄物処理計画の策定支援 教育現場での持続的な分別と環境教育の仕組みづくり 住民が主体となってごみ減量を啓発し推進する 他市へのバジェグランデ市の取り組みの共有
8. 実施期間	（西暦）2021年9月～2026年1月
9. 事業費概算額	57,600千円
10. 相手国側実施機関（カウンターパート）	バジェグランデ市役所、住民リサイクル推進委員会、教育委員会、11市環境協議会
II. 団体の概要	
1. 実施団体	特定非営利活動法人 DIFAR
2. 主な活動内容	ごみリサイクルシステムの導入、環境教育